

dutyヲ除カレテ居ル、其被保險者ハ一ニ〇〇万人アリ、英國ニ於ケル被傭者一八〇〇万人ニ對シテ $\frac{2}{3}$ ニ相当ス、保險期間トシテハ、工場又ハ会社毎ニ産業(労働)委員會ヲ失業保險ヲ行フ方法ヲ新タニ認メタ、其理由ハ從來ノ如ク各種ノ職業ニ同一ノ保險料ヲ適用スルトキハ失業率ノ低イ職業ノ者ニ不利益ナレバ茲ニ事業單位ノ組合ヲ認メルコトニシタルナリ、此ノ如クスレバ被保險者ノ負担ガ自ラ其ノ失業率ニ一致スル結果ニナルカラナリ、但シ此ノ外ニ從來ノ如ク職業紹介所又ハ労働組合ヲ 熾 関 トシテ行ツテキルコトハ別ニ変リナシ、

英國ノ法律ハ其右モ屢、改正セラレテ居ル、併シ之レハ失業保險ノ經驗ガ世界ヲ通ジテ未ダ浅キガタメニ得ムヲ得ザルコトナリ、其ノ他ニ英國主義ノ一欠矣トシテ保險料及ヒ保險金ノ定額主義ノ爲メニ物価ノ変動ニツレテ絶ヘズ法律改正ノ必要ナルコトナリ、英國ニテハ何人ニ對シテモ保險料ハ每週金何錢、保險金ハ金何円ト一定シテ居ルガ近頃ノ如ク物価ノ変動激シキ場合ニハ此ノ方法ニテ

ハ絶ヘズ改正ノ必要アリ、若シ之ヲ大陸主義ニ從ツテ賃金ノ一定ノ割合トスルナラバ物価ノ変動ト賃銀トガ自然ニ相伴ヒ從ツテ保險料及ヒ保險金額モ自働的ニ社会ノ需要ニ一致スル筈ナリ、

### 第三部 火災保險

#### 第一章 沿革

火災保險事業ハ中世ノ *guild* ニ起源シテソレヨリ公營及ヒ私營ノ事業トナレリ、*guild* ニ於テハ組合員ガ平素ノ據金ヲ以テ火災其他ノ不幸ニ出遇ヒシ者ヲ相互ニ救済スルコトヲ具ノ任務ノ一トセンコトハ前述ノ生命保險ト同様ナリ、併シ之レハ單純ナル救済ニ過ギズシテ今日ノ火災保險即チ損害ヲ填補スル迄ニハ到達セザリキ、併シ國民ヲシテ火災ノ不幸ヨリ免レシムルコトハ國家ノ重要ナル政務ノ一トレバ火災保險ハ割合ニ早クヨリ独乙民族ノ國々ニ於テ公營事



業トシテ行ハレタリ。即チ私營事業ハ未ダ發達スルニ至ラザリシニ依テ國家ハソノ欠陥ヲ充タス為メニ火災保險事業ヲ行ヘリ。例ヘバ十五世紀ニ *Schleswig*, *Kolstein* = 都市ノ火災組合ガ起レリ。十七世紀ニハ *Hamburg* 市ニ火災保險金庫ガ設ケラル。此ノ金庫ハ公法的ノ性質ヲ有シ *Hamburg* 市内ニアル公ノ建物ハ必ズ保險ニ附スベキモノトシ、何人ニアリテハ己ノ家屋ヲ保險ニ附セシモノニ限ツテ他人ヨリ抵当物ヲ取ル権利アリトセリ。即チ間接ニ保險ヲ強制セリ、何トナレバ家屋ヲ担保トシテ *Recht* ラスル人ハ貸主ノ請求ニ依テ火災保險ヲ附スルコトヲ余儀ナクセラレル。又其貸主ハ家屋ヲ担保ニトルタメニハ貸主ガ先ヅ自ラ保險ニ加ハルコトヲ要スルワケナリ。十八世紀ノ終リ及ビ十九世紀ニ入りテハ公立火災保險ノ必要ガ益ヲ認メラレ獨ニ各地ハ勿論獨ニ風ノ文化ヲ有スル諸國即チ *Austria*, *Denmark*, *Switzerland*, *Sweden* 等ニ多クノ保險所ガ設ケラレタリ。例ヘバ *Baden* ハ一八〇三年 *Beiem* ハ一八一一年 *Preussen* ハ一八一八年以來設ケラレタ。其ノ一例トシテ

*Beiem* ノ事ヲ述ブレバ其ノ国立ノ保險所ハ一八一一年ニ設ケラレ三四年以來ハ *Rhein* 河右岸ニ於ケル一帯ノ地方ニ始メンド事其上ノ独占ヲ行ヘリ。之レニ加入スルト否トハ原則トシテハ自由ナレドモ公ノ建物、學校、寺院等ガ之レヲ強制セラレ又一般ノ建物ニ付テハ国立火災保險所ニ於テ受諾セザルモノ、外ハ他ノ保險所又ハ会社ニテ之ヲ引受クルコトヲ禁止セラルガ故ニ保險ヲ契約セント欲スルモノニ對シテハ政府ガ自然ニ之ヲ独占スルコトニナレリ。英國ニ於テハ反シ *Field* ノ事業ガ私立事業トシテ發達スルニ至レリ、ソノ發達ヲ促セシハ一六六六年ノ *London* ノ大火災ナリ。此ノ火事ハ九月二日ニ始マリテ四晝夜間斷ナク継続シ當時ノ *London* 市ノ八五%以上ヲ焼キ掃ヒタレバ吾人ハ痛切ニ火災保險事業ノ必要ヲ感ゼリ。此処ニ於テ其翌年 *Nicholas Bardon* ハ何人企業トシテ家屋ノ火災保險ヲ初メタリ。之レ當時既ニ何人企業トシテ海上保險及ヒ生命保險が行ハレシカバ其ノ方法ヲ火災保險ニ応用セシモノナリ。彼ハ此ノ事業ニ多少ノ成功ヲ收メシカバ一六八〇年ニ *Friend*







事業が成立スルニ至レリ。之ヨリ次第ニ多クノ会社ガ設立セラレ今日ニ於テハ世界的ニ其事業ヲ営ムリ。

以上ノ如クニシテ榮達シ来リシ英國ノ保險業ガ火災ノ損害ヲ填補スル他ニニ何ノ功績ヲ現ハセリ。一ハ消防隊ノ設立ナリ。保險会社ハ其ノ支払ヲ少クスルタメニ早クヨリ火災ノ予防及ビ消防ニ注意シ消防機械ヲ備付ケ消防隊ヲ組織シ尚火災ニ際シテハ消防ノ外ニ家財ノ搬出ニ努メ又搬出サレタル家財ヲ監督シテ盗難ヲ防グコトニ努メタリ。然ルニ各会社ノ消防隊ノ間ニ連絡ナク時トシテハ衝突ヲ起スコトスラアリシカバ一八三三年ニハ凡テノ会社ノ消防隊ガ統一セラレテ London ヲ五区ニ分テ十四ヶ所ノ消防屯所ト八十人ノ熟練セル消防夫ヨリナル所ノ消防隊ヲ組織セリ。此ノ頃迄ハ國家又ハ市町村ノ事務所トシテ消防機關ノ組織ナカリシガ一八六六年ニ至リ初メテ London 市ノ消防隊ガ設ケラレシカバ此ノ事業ヲ町ニ引継グ事トナレリ。此ノ沿革アルガ故ニ今日ニテモ英國ノ保險会社ハ毎年火山ノ金ヲ消防隊ノ維持費トシテ町ニ提供セリ。其後ニ於テハ只燒殘

リシ財産ヲ保管シ且之ヲ適當ニ処分スル為事業ヲ Salvage Corps (財産救護隊) ヲ設ケテ火災ニヨル損害ヲ少ナカラシムルコトニ努メタリ。尚火災ニ際シ人及ヒ財産ヲ救ヒ出スコトモ此ノ Salvage Corps ノ任務ナリ。

吾國ニ於テハ明治初年ニ未ダ火災保險ナカリシガ大藏省ノ顧問独人 Paul Meyer ガ火災保險ノ必要ヲ政府ニ建議セリ。於茲明治十二年ニ大藏省ニ火災保險取調掛トイフ委員会ガ設ケラレ十四年其法案ヲ起草シテ大政官ニ建議シテ

- 一、 全国ノ家屋ニ対シ官管強制火災保險制度ヲ設ケルコト。
- 二、 建築條例ヲ設ケテ建築ヲ制限シ危険ノ減少ヲ計ルコト。
- 三、 溝渠、防火壁等ヲ設ケテ延焼ヲ防グコト。
- 四、 消防機関ヲ完備スルコト。

等ノ必要ヲ太政官ニ建議セリ。併シ當時ハ強制保險ノ方法ニ反対ヲ称スルモノアリ。尚其後久シク火災保險事業ハ全ク存在セザリシガ、明治二十年ニ東京火災保險



会社が初メテ設ケラレタリ、之レヨリ次第ニ名称ノモノガ設ケラル  
 ルニ至リシガ二十六年ノ頃ニハ、一時ノ好景氣ニ煽ラレ多数ノ会社ガ  
 設ケラレニ十七八年ノ戦役ニハ一時經濟界ガ衰ヘシガ戦后ノ好景氣  
 ニ連レテ保險会社モ再ビ簇出セリ、於茲各社互ニ競争シ極端ニ料率  
 ラ引キ下ゲ加之各地ニ大火發生セシカバ小会社ハ相次イテ破産セリ  
 此等ノ弊害ニ顧ミテ三十三年ニハ保險業法制定セラレ監督ヲ嚴重ニ  
 セシカバ基礎ノ薄弱ナルモノハ營業停止、又ハ解散ヲ命ゼラレ之レ  
 ヨリ后ハ保險事業ガ堅實ニ發達セリ、世 界 戰 争ノ間及ヒ其後ニ  
 於テハ好景氣ニツレテ又新ニ多クノ会社ガ設ケラレ或ハ海上保險會  
 社ニシテ火災保險ヲ兼スル者沢山現ハレ保險料ノ料率ニ千シテハ各  
 社ノ競争ヲ避ケル爲メニ屢ニ料率協定ガ設ケラレシガ常ニ永續スル  
 能ハザリキ、現在ノ料率協定ハ只一社ヲ除ク外悉ク加入シ居レド其  
 永續ハ困難ナル如ク傳ヘラル、  
 外國会社ハ比較的早クヨリ横浜神戸等ノ貿易所ニ於テ代理店ヲ設  
 ケテ營業ヲ行ヒシガ二十五年ノ頃ヨリ吾國ノ經濟界ノ發達ニツレテ

被保險物ノ恊ガ次第ニ多クナリシカバ、外國会社ハ内國会社ヨリ再保  
 險ヲ引受ケスハ恊全シテ保險スルコトガ次第ニ多クナレリ、此ノ如  
 ク外國会社ノ勢力ガ加ハルニツレテ之レヲ監督スルヲメニ三十三年  
 ニ外國会社ニ干スル件ト云フ勅令ヲ發布スルニ至レリ、今吾國ニ於  
 ケル此等ノ会社ノ狀況ヲ見ルト大正十一年三月末現在  
 内國会社、四十八社、 凡テ株式会社ナリ、十年度ノ新契約ハ凡  
 ソ一〇五億円也。

外國会社ハ三十社、 新契約ハ二十六億円ナリ、其ノ国籍ヲ見ル  
 ニ、英本國二十、英領植民地六、之ヲ細別スレバ香港三、上海一、  
 Newzealand 二、米ニム一、Netherlands 一、等ナリ、

第二章 保險料

今若シ凡テノ建物が全一ノ条件ニアリト仮定スレバ過去數年間ノ



現在戸数ノ合計ヲ以テ罹災戸数ノ合計ヲ除スレバ其ノ危険率ヲ見ルコトヲ得、例ヘバ明治二十六年ヨリ四十年迄ノ十五年間ノ東京ノ状態ヲ見ルトキハ、

$$\frac{\text{罹災戸数合計}}{\text{現在戸数合計}} = \frac{22,482}{5,507,256} = \frac{4.082}{1000}$$

ナリ、

従ッテ純粋ノ保険料ハ保険金一、〇〇〇円ニ付キ四円〇八ニトナル道理ナリ、然モ之ハ一ノ仮定ニ止ル、實際ニハ建築材料、職業ノ種類、周囲ノ状況、其他ノ莫ク考慮スルヲ要スルガ故ニ建築学、科学、其他ノ学問ノカヲモ借りテ合理的ナル参酌ヲ加フルコトモ必要ナリ、而シテ今日ノ状況ヲ見ルトキハ火災保険ハ一ノ商品トシテ売買サレテ居ルカラ世ノ中ノ景氣ノ善悪、企業者間ノ競争ノ有無等ニヨリソノ保険料率ハ時々上下スル、尚ホ上述ノ数学ハ所謂純粋ノ保険料ナレバ事業ヲ営ムタメニ必要ナル保険料ハ此ノ外ニ三〇%—三五%ヲ要スルト云ハル、今若シ純粹保険料ガ四五%ナラバ

ソノ総保険料 *gross* 即チ営業保険料 *Commercial* :

$$\frac{4.55}{1,000} \times (1 - 0.35) = \frac{7}{1,000}$$

即チ保険料ハ一、〇〇〇円ニ付七円トナル訳ナリ、乍併上述ノ如ク保険料ハ時々ノ相場ニヨリテ上下スルコト勿論ナリ、

### 第三章 危険ノ測定

之ハ実体的ノ *risk* (*physical risk*) 及

人為的ノ *risk* (*moral risk*) ヲ測ルコトヲ要ス、

実体的ノ *risk*ノ測定ハ火災保険工学 (*engineering*)、又ハ *fire risk* 測定術 (*assessing*)ノ範圍ニ屬スル、之レガ為メニ

ハ先ヅ *fire*ノ原因ヲ研究スルコト、例ヘバ燈火、燃料、暖房装置、化学的变化ヲ生ズル物質、自然燃焼等ガ *fire*ノ原因トナル



コト多ケレバ之等モ研究スルヲ要ス。  
火災保険ノ引受ケラナスニ当リテハ其ノ被保険物ヲ調査シ建物ノ  
構造位置、其ノ用法、貯藏セラル、物品及ヒ動産保険ノ場合ニハ之  
レヲ容ルル建物ノ状況等ヲ調べ務テ作ラレタル料率表ニ照シテ實際  
ノ保険料ヲ定ム。今其ノ料率表ニ就キテハアル時代ニ吾國ニ行ハレ  
タリシモノノ單簡ナル説明ヲナサン。

建築ノ構造及ヒ等級

第一級 煉瓦造(壁ノ厚サ *Bricks* 以上)

鉄築 *concrete* 造リ

土藏造又ハ石造

屋根ハ瓦 *slate*、亜鉛引ノ鉄板、金屬瓦 *reinforced concrete*、*asbest*、ソノ地不燃質、鉛物質材料ヲ以テ葺キタルカ又ハ *concrete* ヲ下塗リトシ更ニ表面ヲ不燃質ノ物ニテ仕上ゲタル建物ヲ云フ。  
(note) 凡テノ出入口、及窓ニ防火戸、又ハ防火扉ヲ設ク

第二級

ル時ハ一割引トス。  
煉瓦作(壁ノ厚サ八吋以上)  
石造

*reinforced concrete* 造リ又ハ土藏作リニシテ必ズシモ之等ノ構造ノ定義ニハ適合セザルモノ及ビ厚サ七吋以上ノ竹筋 *concrete* 造リ。

第三級

屋根ハ第一級ニ同ジ。  
木骨ニシテ煉瓦張、石張、堅瓦セメント塗り又ハ堅瓦シツクイ塗、鉄網コンクリート造、

*hollow brick* (空洞式煉瓦造)、及鉄骨ニシテ金屬其他ノ不燃質ノモノヲ周壁トシタル建物ヲ云フ。  
屋根ハ第一級ニ同ジ。

第四級

以上ノ外ノ構造ニシテ屋根ハ第一級ニ全ジキモノヲ云フ。  
料率表ハ全國ヲ十一区ニ分ツ、各区ニ料率ヲ定メ其各区ニ就テモ人家ノ稠密ノ程度、住宅地ト商業地トノ區別、都市ト郡部等ニ就テ



各區別ヲナス。今東京府ノモノヲ例ニ挙ゲン。(凡図)

＝〇＝

保 險 料 率 (一ケ年100 yamニ付)

地 域	第一級	第二級	第三級	第四級
東京	20	25	30	40
1. 一等地	25	30	40	60
2. 二等地	30	40	60	80
3. 三等地	35	50	80	1.00
4. 四等地	45	70	1.25	1.60
5. 五等地	60	1.00	2.00	2.50
6. 六等地	2.00	3.00	5.00	5.00
7. 七等地 (建築物ノ用途如何ニカ、)	1.50	2.50	4.00	4.00
8. 八等地 (同上)	1.00	2.00	4.00	4.00
9. 九等地 (同上)				

北千住遊廓	1.00	2.00	4.00	4.00
其他	.35	.50	.80	1.00

之ノ外ニ特定料率トシテ特別ノ建物ヲ限リ特ニ料率が定メラレテ  
キルモノアリ

此ノ外ニ割増料率トシテ凡ノ如キモノガ列記サレル、  
可燃性ノモノデ葺キタル屋根、材料ノ如何ニ拘ハラズ三〇%  
増

三階以上ノ建物、第一級及び第二級ノ建物ニアツテハ第四階  
及ソレ以上一階ヲ増ス毎一〇〇円ニ付一〇銭ヲ加フ

第三、四級ノ建物ニアリテハ三階及ヒソレ以上ヲ増ス毎一〇銭  
ヲ加フ、但シ五重ノ塔ノ如キ建物ニ対シテハ此ノ階級割増ヲトルラ  
要セズ、又都会ノ一等地及ヒ二等地ニアル第一級ノ建物ニシテ第一  
事務所トシテ使用セラルル物ニアリテハ階級割増ヲ取ラズ、  
建築中又ハ大修繕中ノ建物ニ対シテハ一級ニ級ノモノニハ三〇銭、

＝〇＝



三及四級ニハ五〇銭ヲ加フ、此ノ割増ハ日割計算ニヨリテ取ルコトヲ得、

職業ニヨル割増、其ノ地方及建物ノ等級、其他色々ノ事情ニヨリテ区々ニナルガ故ニ、要之普通ノ料率トシテ定メラレタルモノハ上ニ特ニ列記セラルル割増ナリ、其ノ主ナル職業ヲ云ハバ

(一) 貸座敷、(二) 演劇及ヒ活動ヲ興行スル建物、(三) 興業ノ目的ニ非ズシテ活動写真ヲ映写スル建物、(四) 寄席、(五) 興行

場、(六) 紙屑商、(七) ボロ綿商、(八) 營業用自動車ノ格納場

(九) セルロイド加工工場、(十) 旅館、下宿屋、飲食店、湯屋、薬品商、家具製造所、油屋、鍛冶屋、製本屋、畳屋、提燈屋、染物屋、病院、夜学校、二十銭増、

倉庫ノ中ニ危険品ヲ收容スルトキハ下ノ割増金ヲトル、野積ノ場合モ亦同ジ、

危険品  
α級 十五銭  
β級 三十銭

特別危険級 八十銭

隔離セル建物ニ対シテハ、例ヘバ周囲十間以上ノ空地ヲ有スルトキハ又ハ周囲五間以上ノ空地ヲ有スル時ト云フガ如ク其状況ニ依ジ六〇—ニ〇〇ヲ引ク、

単ニ住宅ニノミ使用スル建物、及ビ附属倉庫ニ対シテハ特ニ廉価ナル料率が定マル、

野積又ハ上家ノ中倉庫内ノ石炭ニ付テハ自然発火ノ危険ヲ除外スルナラバ一円、若シ自然発火ノ危険ヲモ含ムナラ一円五十銭、

箱入ニアラザル金物類ヲ他物ヲ混藏セザル特別ノ条件ノ下ニ倉庫ノ中ニ貯藏セラレタルトキハ二五〇引、野積ノ場合ニハ第四級ノ建物ニ対スル其地区ノ料率ノ割引トス、

割増又ハ割引ハスベテ基本率ニ対シテ各別ニ之ヲ計算スル、

消防設備ハ火災ニ干係ヲ有ス、此ノ設備ヲ分テテ警火、報火、防火、消火、救護ノ五トス、

警火設備トハ放水ヲ警戒シ又ハ火ノ用心ヲ巡視スル夜警ノ如キヲ



云フ、報火設備ノ簡單ナルモノハ火見櫓ノ類ニシテ近年ハ電話及ヒ  
報火柱ノ如キ有効ナル機械ガ用キラレテキル、西洋ニテハ台働報火  
器ガ建物ノ中ニ備付ケラレテキル例ガ沢山ナル、防火設備ハ耐火  
料ノ使用、防火壁ノ設置、等ノ如ク火災ノ發生及ビ延焼ヲ防ク目的  
ノモノナリ、今日大都市ニ於テハ建築條例ヲ設ケテ建物ノ構造及ビ  
高サ、空地等ノ設備ニ就テ取締ルコト、ナレリ、消防設備ハ地方自  
治体ガ消防隊ヲ設ケ居レリ、外ニ輕便消火器又ハ私設消防隊ヲ設ケ  
ルコトモアル、殊ニ自働消火器 (Automatic sprinkler) ヲ設備  
スルコトハ倉庫等ニ付キテ最も有效ナルコト、セラル、救護設備ハ  
火災ノ時ニ人命救助、財産ノ撤出及ビ其紛失ニ注意シ尚鎮火后ニモ  
損害ノ減少及ビ其ノ処分方法ヲ講ズルヲ目的トス、之レガ爲ニ *Sal-*  
*vage Corps* ト云フ公共的団体又ハ *Salvage* 会社ハ一ツアレド  
モ火災保險ニ干係スルモノハ未ダナシ、  
此ノ実体的 *rule* ノ測定ハ米ニ於テ最も飛進ス、其ノ東部地方ニ  
テハ *Shaw's Method* ガ広ク行ハレテキル、ニツナガラ一定ノ標準

的ノ建物ヲ基礎トシテ被保險物ガ此ノ標準ヲハナレルニ從テ一定ノ  
率ヲ加ヘ又ハ減ズルモノナリ、

次ニ人為的 *rule* モ亦火災保險ニ注意ヲ要ス、例ヘバ自家ガ焚燒  
ニ及バントシテモ防火手段ヲトラヌト云フガ如キ *negative* ノ  
*rule* モアリ、又保險金ヲ得ルタメニ自家ニ放火スルト云フ如キ *no-*  
*active* ノ *rule* モアリ、或ハ損害ヲ過大ニ報告シテ不正ナル利益  
ヲ得ル者モアリ、之等ヲ防グタメニハ其ノ契約者ノ資産、信用、身  
分、品性等ヲ考慮スル注意アリ、又被保險物ニ就テモ流行品ノ如キ  
モノ又ハ価格ノ上下ノ大ナルモノ等ニ就テハ特ニ注意スルノ必要ナ  
リ

人為的 *rule* ヲ防グタメニハ超過保險 *Over insurance* ヲ慎ム  
コトナリ (商法三八大条)、併シ時トシテハ物価ノ変動等ニヨリ契  
約后ニカ、ル状態ニ陥ルコトモアリ、ソノ爲メニ商法三九三条ニハ  
損害填補額ハ時価ニヨルモノト定ム、然レトモ此ノ方法ニヨルトキ  
ハ当事者間ニ争ガ起ルコト多キヲ以テ定価保險証券 (*valued po-*  
lice) 。



(policy) を以て契約スルコトアリ。此ノ場合ニハ其ノ契約金額ニ対  
 シテ争ヒ得ザルヲ原則トス。然レトモ若シ保険者ニ於テ其ノ極格ガ  
 著シク過当ナルコトヲ証明スレバ其ノ填補額ヲ減少シ得ルモノトス  
 (商法三九四)。併シ此ノ方法ニヨリテモ保険者ガ此ノ権利ヲ絶ヘ  
 ズ行使スレバ被保険者ノ利益ガ害サル、ガ故ニ合衆国ノ多クノ州ノ  
 定価保険証券法ニ於テハ契約當時ノ協定額ハ之ヲ動カスベカラズト  
 定ム。又ニ一部保険 (under insurance) ノ方法ハ人為的 risk  
 ヲ防グタメニハ有効ナリ。之ハ保険金額ヲシテ常ニ保額極格ヨリモ  
 小ナラシムル方法ナリ。(商法三九一) 例ヘバ Europe ノ公立火災  
 保険ニ於テ保険金額ハ被保険物ノ査定額ノ 2/3 ト定ムモノアリ。又  
 合衆国ニ於テハ保険金額ヲ保額極格ノ 80% ト定ムル習慣アリトノ  
 コトナリ。吾国ニ於テハ此ノ如キ法律又ハ慣例ナケレドモ事實上ニ  
 一部保険ハ普通ニ行ハル。但シ之レハ被保険者ガ保額極格ヲ契約スルメ  
 メニ好ンデ行ヘルナリ。此ノ一部保険ノ場合ニハ其ノ不足額ニ付テ  
 ハ或ル意味ニ於テハ被保険者自ラ自身ノタメニ保険者トナリ保險會

社ト共金シテ危険ヲ担保シテキルガ如キ状態ナレバ之レヲ協会  
 Assurance Co-insurance ト称ヘルコト下レトモ此ノ言葉ハ右述ス

ル協会保険ト混雜スルガ故ニ之レヲ用ヅザルヲ可トス

一部保険ハ保額ノ本質カラ見テハ不完全ナリ。即チ十分ニ原状恢

復ヲ為シ得ザル欠点アリ。從ツテ全部保険 full cover ノ方法ヲ

適當トス。而シテ實際ニ於テハ保險者ハ保額極格ノ多キコトヲ欲

スルニヨリテ多少ノ超過保險ハムシロ觀迎セル状態ナリ。加之近年

ハ保險ニヨル損害填補ガ可及的完全ナルコトヲ期スル為メニ營業利

益ノ火災保險 (insurance against loss of profits by fire  
 一名事台損害保險 consequential loss insurance) ナルモノガ

歐洲ニ於テ行ハル。之レハ fire の為メニ転居、新築、休業等ヲ余

儀ナクセラレテ火災ノ台多少ノ損害ヲ蒙ルモノナラバ之レヲ保險ス

ルモノナリ。其方法ハ帳簿ヲ検査シテ火災後ニ於ケル營業利益ガ其

ノ前年ヨリモ減少シタルトキハ、之ノ全部又ハ一部ヲ填補スルナリ。

但シ我國ニテハ未ダ行ハレズ



一部保険ノ契約ノトキニハ保險者ハ損害ノ發生シタルトキニ保險金額、保險価格ニ対スル割合ヲ以テ其ノ損失ヲ填補スルノが普通ナリ。之レヲ比例填補ノ方法ト云フ (*pro rata*)。併シ英國ニテハ時トシテハ特別契約 (*Special Policy*) ノ方法ニヨリテ保險金額ヲ限度トシテ絶対的ニ損害填補ヲ約束スルコトモアリ。例ヘバ保險価格(10,000円)、保險金額(8,000円)、損害(5,000円)ノ片ニ比例填補ナラ(4,000円) 絶対填補ナラ(5,000円)ヲ支払フコト、ナルヘ商三九一)

二一〇

#### 第四章 保險ノ分配

各被保險物ニ付テ危險ヲ測定シタル上保險者ハ其ノ事業ノ安全ノ爲メニ事業全体ノ上ニ於ケル危險ノ分配ヲ注意セサルヘカラス。即チ事業全体ニ就テ損害ノ發生ヲ平均セシメ之レヲ緩和スルタメニ危

險ノ分配ヲ適當ナラシメサルヘカラス。之レガタメニハ可及的保險金額ノ差異ノ少ナキ被保險物ヲ可及的多数ニ又可及的各地ニ散在シテ契約スルコトヲ要スル。前ニ保險ノ可能範圍ニ付テ保險ノ実行ノ難易ニ付テ述ベタル所ヲ参照セヨ。危險ノ分配ヲ適當ナラシムルニ少クトモ四ツノ方法アリ。

- (1) 一ツノ危險ニ対スル責任ノ最大限ヲ制限スルコト。  
 一時ニ巨額ノ損害ノ發生ヲ避ケルタメニ之レヲ必要トス。其ノ最大限ヲ決定スル時ハ資本積立金、保險金額ノ平均危險ノ程度等ヲ参考スルコトヲ要ス。  
 コレニ一危險ト云フノハ一契約トハ異ナルナリ。例ヘバ分擔危險 (*Separate risks*) ト称シテ防火壁ノ如キモノデ十分ニ隔離サレテキル数個ノ建物ヲ一枚ノ証券デ契約スルトキハ各 *Risk* 即チ各建物毎ニ具ノ最大限ヲ計算スルヲ以テ足ル。反之集合危險 (*collective risk*) ト称シテ数個ノ建物ガ十分ニ隔テラレテキル時ニハ之等ヲ合セテ一危険ト見ルベキモノナレバ之等ノ建物ニ就テ数個ノ保險契約ヲナシタル場合ニモ之レヲ併セテ一危険ト見做シテ其最大限ヲ定ムヲ要ス。建物トソノ内容物トニ就イテモ同

二一一



様ナリ

(2)

危険ノ密集ヲ避クルコト

エレガタメニハ營業ノ区域ヲ全国又ハ全世界ニ渡ラシムルコトヲ要ス、又今一ノ地域ニアリテハ危険区域ヲ定メテ各区域ニ對スル責任額ヲ制限スルヲ要スル、即チ火災ノ危険ヲ隔離シ延焼ヲ防クニ足ルヘキモノヲ地勢上及ヒ防火設備等ニ求メテ之レニヨリテ一地方ヲ若干ノ危険区域ニ細分シテ其ノ一区域ヲ広義ノ一危険ト考ヘテ之レニ對シテ会社ノ負担スヘキ限度ヲ定ムルナリ、此ノ必要ニ備フルタメニ並ニ保険料率ヲ決定スルタメニ保險会社ハ重ナル都會ノ危険區域、即チ保險図ヲ作レリ

(3)

再保險 Re-insurance

保險者ハ時トシテハ其營業上一危険ニ對スル責任ノ限度ヲ超ヘテ契約スルコトヲ余儀ナクサル、コトアリ、又危険ノ密集ヲ避クル事既ハサレコトアリ、カ、ル場合ニハ其責任額ヲ輕クシ危険ノ分配ヲ適當ニスル方法ガ再保險ナリ、例ヘバ一ツノモノニ對シテ保

險二十五万円ヲ契約シタレトモ自己ノ責任トシテハ重過キル嫌ヒアリ、

十方円ヲ以テ適當ト考ヘタラバ自己ガ引受ケタル二十五万円ノ中例ヘバ八万円ヲ甲保險会社ニ、七万円ヲ乙保險会社ニ更ニ保險ヲ付シ其ノ責任ヲ転嫁シ自己ノ負担ヲ一〇万円ガケニ止ムルガ如ク、再保險契約ノ條件ハ元受契約ノ通りハ *De pro original*、トスルヲ通例トス、從テ元受保險者ガ保險契約上ノ義務トシテ保險金ヲ支私フトキハ再保險者ハ其負担部分ヲ元受保險者ニ支払フモノナリ、此ノ如ク再保險契約ハ会社ト会社トノ間ニ行ハル、モノニシテ最初ノ契約者トハ全く無干係ナリ、而シテ保險会社ノ間ニ再保險ヲ受授スルコトハ其ノ任意タルコトモアリ、或ハ一定ノ割合ヲ必ズ受授スル特約ノコトモアリ、或ハ一方ヨリ申込ミアリタル片ハ他方ハ之レヲ拒絶スルヲ得ザル特約ノアル事モアリ、姉妹会社ノ間ニ於テハ屢之等ノ特約ガ存ス、

(4) 共全保險、又ハ分担保險 (Co-insurance ; Contribution clause 分担約款)



ニ一四  
保險価格ノ大ナルモノニ對シテ一保險者ニテ全部ヲ引受ケ得ザル場合ニ多數ノ保險者ガ各一部宛保險ヲ引受クルモノナリ。此の場合ニ各保險者ハ聯合シテ此ノ契約ヲナスコトモアリ。或ハ各保險者ノ間ニハ何等ノ連絡ハナク各單獨ニ一部保險ヲ契約スルコトモアリ。一例ヲ挙げレバ建物ニ對シハ八万円、商品ニ對シテ六十四万円ノ契約ヲナシ内國会社ト九ノ外國会社トニ分担契約ヲナセシ一ノ大呉服店ノ全焼シタルコトアリ。此ノ方法ニヨレバ保險者ノ負担スル責任額ガ多クノ契約ニ就テ大体具大サガ一定スルガ故ニ平均ノ法則ガヨク働キ其事業ガ堅實トナル。  
ニ一五  
共同保險ノ同時ニ契約セラル、トキニハ之レヲ同時共同保險ト云フ。若シ時ヲ異ニシテ契約セラル、ナラバ之レヲ異時共同保險

(相次又ハ逐次)トイフ。今若シ共同保險者ノ保險金額ノ合計ガ保險金額ヲ超ヘザルトキハ各保險者ノ地位ハ同時契約タルト異時契約タルトニヨリテ差別ナク宛モ單獨ニ一部保險ヲ契約シタルト全額ニ責任ヲ負フ。然ルニ同一物上ニ數個ノ契約ガ結バレ其ノ保險金額計ガ其價 格ヲ超エルトキハ法律上之レヲ重複保險 (Double Insurance)ト云フ。(商三八七及三八八)之レハ即チ共同保險ニシテ且ツ超過保險タル場合ニシテ吾商法ハ全時及ビ異時契約ニヨリ保險者ノ負担ヲ區別セリ。全時ノモノニアリテハ此ノ損害ハ各保險者ガ各保險金額ニ比例シテ負担スルコトナレリ。(商三八七)換言スレバ超過保險ノ超過部分ガ各保險契約ニ付テ比例的ニ無効トセラル例ヘバ



保険種類	保険額	全損		全損	
		損害(甲)	負担額(甲)	損害(乙)	負担額(乙)
十カ円	842	10万円	5.9	4万円	2.3
三人			2.9		1.1
			1.4		0.6

然ルニ異時重複保険ニマリテハ商法三八八条ハ順次填補主義ヲ採リ第一順次ノ保険者が先ヅ損害ヲ填補シ若シ其ノ負担額ガ損害全部ヲ填補スルニ足ラザルトキハ次第第二、第三ノ順位者が之レヲ負担スルモノトス、其結果トシテ次ノ如シ、

保険種類	保険額	全損		全損	
		損害(甲)	負担額(甲)	損害(乙)	負担額(乙)
十カ円	842	10万円	820	4万円	3.2
			2		0.8
			0		0

分損ノ場合ニハ商法ニ何等ノ規定ナシ、学説ニヨルノ外ナシ、余ハ全損ノ場合、負担額ニ比例シテ負担額ヲ定ムルヲ可ナリト信ス、サレトモ吾国ノ保険会社ハ此ノ二者ヲ全一ニ取扱ヒ凡テ全損ニ比例的ニ分損スルモノト定ム、實際便宜ナルノミナラス事故發生ノ日附ノ如何ニヨリテ各保険者ノ負担ニ不公平ヲ生ズル怖レナキが故ナリ、尚注意スベキコトハ上述ノ重複保険ノ定義ハ吾商法ニ従ヒシモノナリ、併シ實際ニ吾保険業者ハ苟クモ一物ノ上ニ数回ノ契約アレバ超過保険タルト否トヲ向ハス常ニ之レヲ *double insurance* ト云フ、尚注意スベキハ一部保険ヲ外国ニテハ *Co-insurance* ト云フコトナリ、之レハ前述ノ如ク被保険者が自ラ其ノ一部分ヲ負担スルコトニヨリテ比喩的ニ共同保険ト称スルニ過ギスシテ今茲ニ共同保険ト云フモノトハ異ナル、



### 第五章 火災保險約款

商法ノ保險契約ニ関スル規定ハ凡テ任意規定ナレバ契約当事者ガ之レニ異ナル契約ヲナスモ公序良俗ニ反セザル限り有效ナリ 故ニ保險会社ハ普通保險約款ナルモノヲ設ケテ保險業法ノ規定ニ從ツテ主務大臣ノ認可ヲ受ケ此ノ約款ニ從ツテ契約スルコト、セリ 但シ此ノ外ニ特約ヲナスコトハ元ヨリ妨ゲナシ 故ニ商法ハ只約款ノ不備ヲ補ヒ又ハ其ノ疑義ヲ決スルタメニ有効ナリ、而シテ吾國ニ於テハ内國会社ハ凡テ同一ノ内容ヲ有スル共通ノ約款ヲ採用シ又吾國ニ於テハ外國会社ハ之ト多少ノ差異アル約款ヲ共通ニ使用セリ、故ニ Fire insurance ノ法律ニ係ル約款ヲ第一トシ之レヲ補フニ判例、及ビ商法ヲ以テスベキナリ、吾内國会社ノ採用セル約款ハ下ノ如シ、

第一條 当会社ハ此ノ約款ニ從ヒ火災ノ為メ保險ノ目的（被保險

物）ニ生ジタル損害ヲ填補スルヘ但シ第十七條ノ免責事項ヲ注意スベシ

第二條 当会社ノ保險契約ノ責任ハ保險料ヲ領收シタルトキニ始マリ保險契約期間ノ最終日ノ午後四時ニ了ルモノトスヘ例ヘバ契約締結ノ日ガ八月ノ九日、保險料ヲ拂込メル日ガ十一月、保險証券ヲ作成セル日ガ十四日デアルトスレバ其ノ契約期間ハ通例一年ナルガ故ニ本年ノ八月十一日ヨリ明年ノ今日今日午後四時迄ニ生ジタル損害ヲ填補スルナリ

第三條 建物ノ保險（即チ不動産保險）ニ於テハ門、圍障、牆壁、物置、納屋、其他ノ附屬建物ハ特ニ保險証券ニ明記シタルトキニ非レハ保險ノ目的ノ中ニ包含セズ

第四條 動産ニアリテハ貨幣、印紙、貴金屬、宝玉、証券、有価証券、書画、稿本（manuscripts）、彫刻物、古貴物、其他普通價格ヲ有セサルモノハ特ニ保險証券ニ明記シテ保險ヲ為シタルニ非レバ保險ノ目的ニ包含セズ、之ハ評價ノ困難及不正ナル損害填補



請求ヲサケルコト等ヲ目的トシタル条項ナリ。

第五条 左ノ四ツノ場合ニハ保険契約ハ無効トス。

(a) 保険契約ニ干シ保険契約者又ハ被保険者ニ詐欺ノ行爲アリタルトキ。

(b) 保険申込ノ当時ニ同一ノ保険目的ニツキ保険契約者又ハ其他ノモノト他ノ保険者トノ間ニ締結シタル保険契約が存在スル場合ニ其旨ヲ保険申込者ニ明記シテ当会社ニ申シ出デザルトキ。

(c) 他人ノ爲メニ保険契約ヲ締結スルモノガ其ノ旨ヲ保険申込者ニ明記シテ当会社ニ申シ出デザルトキ。

(d) 保険契約者又ハ被保険者カ知ルト否トヲ向ハス保険契約ノ当時ニ保険ノ目的ガ既ニ火災ニカ、リ居タルトキ、又ハ火災ニ罹ル可キ原因ガ已ニ發生シタルトキ。

(ハ茲ニ保険契約者又ハ被保険者ト云ヘルハ商法ノ用例ニ從ヘルモノニシテ前者ハ保険契約ノ当事者トシテ保険料払込ミノ義務ヲ負ヘルモノナリ、后者ハ保険金ヲ受取ルヘキモノナリ。此ノ講義ニ於テ單

ニ被保険者ト云ヘルハ此ノ兩者ヲ包括シタル意味ナリ。尚又被保険者ナル語ハ生命保険ニ於テハ保険契約ノ内容ノナセル所ノ生死ノ懸レル人ヲ云ヒテ其保険金ヲ受取ル可キ人ハ之レヲ保険金受取人ト云フ。從ツテ被保険者トハ商法ニ於テモ稍混雜シテ居ルナリ。

第六条 保険金額ガ保険ノ目的ノ価額ニ超過シタルトキハ其ノ超過部分ニ付イテハ保険契約ハ無効トス。之レ超過保険ノ規定ナリ。保険金額トハ保険者が填補スベキ責任額ノ最大限ヲ云フ。保険ノ目的ノ価額、即チ被保険者トハ被保険物ノ実価ヲ云フ。其価ハ第十九条ニヨリテ決定セラル。而シテ吾國ノ会社ハ定額保険ノ契約ニハ特約ニ依ラザレバ之ニ恣セザルモノ、如シ。

第七条 保険契約ノ当時悪意又ハ重大ナル過失ニヨリテ重要ナル事實ヲ述べズ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ述ヘタルトキハ当会社ハ契約ヲ解除スルコトヲ得。但シ当会社が其事實ヲ知り又ハ過失ニヨリテ之レヲ知ラザリシトキハ此ノ限りニ非ラス。此ノ条文ハ契約者ノ告知義務トシテ重要視セラル、モノナリ。而シテ重要ナル



事柄ト云フハ危険ノ測定ニ干シユレニ影響ヲ及ボスベキ事柄ヲ云フ  
ナリ。此ノ解除権ハ契約ノトキヨリ五年又ハ当会社が解除ノ原因ヲ  
知リタルトキヨリ一ヶ月ヲ経過シタルトキハ消滅スル。(此ノ条項ヲ  
不可抗争条項ト云フ。 *irresistibility clause or non-for-*

*future clause* 不解除条項)

第八条 保険契約者又ハ被保険者ニ於テ当会社ノ保険シタル目的  
ニ就キ重ネテ他ノ保険者ト保険契約ヲ締結スルトキハ予メ当会社ニ  
申シ出デ保険証券ニ承認ノ裏唇ヲ受クヘシ。第三者が全一ノ目的ニ  
付キ他ノ保険者ト重ネテ保険契約ヲ締結シタル事実ヲ知リタルトキ  
モ亦遅滞ナク前項ノ手續ヲナスベシ。此ノ承認ノ裏唇ヲ請求シタルトキ当会社  
ハ保険契約ハ効力ヲ失フ。此ノ承認ノ裏唇ヲ請求シタルトキ当会社  
ニ於テ危険ノ増加又ハ変更アリト認メタルトキハ契約解除又ハ保険  
料増加ヲ為スコトアルベシ。(第十二条) へ現在多クノ内国及ヒ外国  
ノ会社ハ吾国ニ於テハ大日本聯合火災保険協会ヲ組織シテ居ルが其  
会員タル加盟会社ハ非加盟会社トノ分担契約ハ之ヲ承認セサルコト

ト定メ居ルナリ

第九条 保険契約者又ハ被保険者ハ其責ニ帰スヘカラサル事由ニ  
ヨルト虽モ若シク火災ノ危険ノ度が増加シ又ハ変更シタルトキ、遅  
滞ナク当会社ニ申出デ保険証券ニ承認ノ裏唇ヲ受クベシ。保険目的  
ヲ他ノ場所ニ移転セントスルトキ又ハ保険ノ目的、又ハ之レヲ入レ  
タル建物ヲ改築、増築、又ハ修繕セントスルトキモ又同一ノ手續ヲ  
ナスベシ。之等ノ手續ヲ急レハ保険契約ハ失効スル。又当会社ニ於  
テ危険ノ増加又ハ変更アリト認メタルトキハ改約又ハ保険料増額ヲ  
ナスコトアルベシ。(第十二条)

第十条 保険契約者又ハ被保険者ガ保険ノ目的ト共ニ保険契約ニ  
ヨリテ生ジタル権利ヲ譲渡シタルトキハ危険ノ増加又ハ変更ナキ時  
ト虽讓渡人及讓受人ヨリ遅滞ナク当会社ニ申出デ保険証券ニ承認ノ  
裏唇ヲウク可シ。此ノ手續ヲオコタレバ契約ハ失効スル。又之レガ  
為メニ危険ニ変更又ハ増加アリト認ムレバ当会社ハ解約又ハ保険料  
増額ヲナスコトアル可シ。(十二条)



第十一条 当会社ハ保險契約ノ存続中何時ニテモ保險ノ目的ヲ換  
查スルコトヲ得、此ノ検査ヲ正当ノ理由ナクシテ拒ミタルトキハ当  
会社ハ解約ヲナスコトヲ得、又其検査ヲ施シタルトキ当会社ニ於テ  
危険ニ増加スルハ変更アリト認メタルトキハ解約又ハ保險料増加ヲナ  
スコトヲ得(第十二条)

第十二条 保險契約ノ解除ハ将来ニ向ツテノ其効力ヲ有スルハ  
本条ニハ第八條以下ニ干係スル事柄ニ就テ失効解約、保險料増加ノ  
場合ヲ列挙シテキル

第十三条 保險ノ目的ガ火災ニカ、リタルトキハ保險契約者又  
ハ被保險者ヨリ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ当会社ニ通知シ十五日以内  
ニ火災ノ状況調査及ビ損害見積届ヲ作り一名以上ノ保証人ト連署捺  
印シテ之ヲ当会社ニ提出スベシ、当会社ヨリ証明、説明等ヲ請求シ  
タル事項ニ付テハ遲滞ナク誠實ニ其説明証明ヲナスヘシ、之等ノ各  
類又ハ説明、証明中ニ詐欺ノ目的ヲ以テ不正ノ表示ヲナシタルトキ  
ハ当会社ハ損害填補ノ責ニ任ゼズ(此ノ場合ニハ刑法二四六条ニ

五〇条ニヨリテ詐欺罪ヲ構成スルコトアルベシ)

第十四条 保險ノ目的ガ火災ノ為メ損害ヲ生シタルトキハ当会社  
ハ之レヲ調査シ必要アルトキハ一時其ノ目的ヲ保管シ又ハ他ニ移転  
スルコトアルベシ

第十五条 損害ハ十三條ノ手續アリタル日ヨリ三〇日以前ニ之ヲ  
填補スル、但シ当会社ニ於テ此ノ期間内ニ必要ナル調査ヲ終了シ得  
ザルトキ又ハ修繕、再築ヲ以テ損害ヲ填補スル場合ハ此ノ限りニア  
ラズ

第十六条 損害ハ通貨ヲ以テ填補スルモノトス、但シ当会社ノ都  
合ニヨリ現品ノ交付又ハ修繕、再築等ノ方法ヲ以テ之レニ更フルコ  
トアルヘシ

第十七条 下ニ掲クル七ノ場合ニハ当会社ハ填補ノ責ニ任ゼズ、  
(1) 保險契約者又ハ被保險者ノ悪意又ハ重大ナル過失ニヨリ生シタ  
ル損害  
(2) 火災ノ際保險ノ目的ヲ紛失又ハ竊取セラレタルヨリ生ジタル損  
害



害

ニニ六

- (3) 保険ノ目的ノ性質、瑕疵又ハ自然ノ消耗ニヨリ生シタル損害
- (4) 原因ノ直接ナルト間接ナルトヲ向ハス戦争、暴動、一揆、其ノ他ノ事変ノ為メニ生シタル火災及ヒソノ延焼、其他ノ損害
- (5) 原因ノ直接ト間接トヲ向ハス地震又ハ噴火ノ為ニ生シタル火災及其延焼、其他ノ損害
- (6) 保険ノ目的中ニ存在シ又ハ其ノ目的ニ附属スル汽罐、汽機、其他ノ破関、破裂、又ハ火薬ノ爆発ノタメニ生シタル火災、其他ノ損害
- (7) 保険契約者又ハ被保険者カ法令ニ違反シタルニヨリ生シタル損害

第十八条 動産保険ノ場合ニ於テ契約者又ハ被保険者ガ帳簿其他確實ナル方法ヲ以テ損害額ヲ証明スル能ハサルトキハ其不明ナル部分ニ付テハ会社ハ損害填補ノ責ニ任セ入レ之レハ工場倉庫等ニ就テハ証明材料タル帳簿等ガアルケレトモ小店又ハ住所ノ如キモノハ殆

ド証明不能ナレバ注意ヲ要スル条項ナリ

第十九条 保険ノ目的カ火災ニカ、リタルトキニ於ケル其ノ目的ノ価額保險金額ヨリ多キトキハ当会社ハ目的ノ価額ト保險金額トノ割ニヨツテ損害ヲ填補スルハ之レハ一部保險ノ場合ナリ、此ノ条項ヲ英國ニテハ *Average clause* 米國ニテハ *Co-insurance clause* ト云フ、即チ

損害額 × 保險金額 = 填補額  
 保險金額

トナルナリ

保險目的カニツ以上アルトキハ各別単独ニ前項ノ割合ニヨルモノトス、之ハ一ノ契約中ニ目的物カニ内以上アル場合ヲ指スナリ、以上ノ契約ニ付テ各契約ヲ別々ニ計算スヘキコトハ勿論ナリ、保險ノ目的ノ価額カ保險金額ヨリ少キトキハ其価額ヲ限リ損害ヲ補填スルハ之ハ第六條ノ超過保險ヲ繰返シテ詔セルナリ、契約者又ハ被保險者カ損害防止ニ要シタル費用ハ特約アルニアラサレハ当会社之ヲ

ニニ七



負担セス。

第二十条 保険ノ目的カ火災ニカ、リタルトキ其ノ目的ニツキ  
当会社ト合時ニ又ハ時ヲ異ニシテ締結シタル他ノ保険契約カ存在ス  
ル場合ニハ当会社ハ各保険者ノ保険金額ノ割合ニ依テ其ノ損害ヲ填  
補スルモノトス。(此条項ヲ分担条項 Contribution clause)ト  
云フ、而シテ吾国ニテハ異時重複保険ヲ同時重複保険ト同一視スル  
モノナリ、其計算ノ一例ヲ示セハ

各保険者ノ保険セル金額ヲA、B、Cトス、而シテA+B+Cニ  
各保險者トスレバ

$$\frac{A+B+C}{A+B+C} = \text{填補額合計} \dots\dots\dots (x)$$

$$x \times \frac{A}{A+B+C} = \text{各保險者ノ負担額}$$

第二十一条 保険契約ノ無効、失效又ハ解除ノ場合ニ於テハ既  
ニ受取リタル保険料ハ返還セス、但シ当会社ノ責ニ歸スヘキ事由ニ

出テタルトキハ無効ノ場合ニハ金額失効及ヒ解約ノ場合ニハ其翌日  
ヨリ日割ヲ以テ計算シタル保険料ヲ返還スル

第二十二条 保険ノ目的ノ価格又ハ損害ニ付テ当会社ト被保険  
者又ハ契約者トノ間ニ異議ヲ生スルトキハ双方ヨリ一人宛ノ評価人  
ヲ選任シテ之レヲ評価セシムルモノトス、評価人ノ意見一致セサル  
トキハ評価人カ合意ノ上一人ノ仲裁人ヲ選任シテ之レヲ判断セシム  
此ノ判断ニ対シテハ異議ヲ述ブルヲ得ズ、評価及判断ニ要スル費用  
ハ双方カ半分宛負担スル、ハ保険ノ目的ノ価格即チ保険価格ハ第十九  
条ニヨリ罹災當時ノ価ヲ標準トスルモノナルヲ注意セヨ

第二十三条 保険ノ目的ノ喪失ニ就キ Loss ヲ生シタル場合ニ  
於テ其ノ Loss ヲ填補シタルトキハ之レヲ保険金額ヨリ控除シ其ノ  
残余ヲ以テ残余ノ契約期間ノ保険金額トス、此ノ場合ニ其ノ残余カ  
保険金額ノ五分ノ一未満ナルトキハ全部ノ Loss ヲ見做シテ保険  
契約ハ終了スルモノトス

第三十四条 被保険者及ヒ契約者ハ当会社ノ利益配当ニ預ル權



利ナシハ之ハ相互会社ニ於テ所謂利益配当ヲナス例アレバ特ニ之ヲ明ニシタルナリ)

第二十五条 保険契約ハ期限終了ノトキニ之レヲ継続スルコトヲ得、此ノ場合ニハ保険料ノ領收書ヲ以テ契約ノ継続ヲ証スルモノトス、(火災保険契約ハ通例ハ一年ヲ期限トスルガ時トシテハ長期ノ契約モアリ、短期ノ契約モアリ、此ノ場合ニハ保険料ハ一年分ニ對スル比例部分ヨリモ多ク納メサル可ラス)

以上ハ内國保險会社ニヨリテ今日共通ニ用ビラル、約款ナリ、此ノ約款ニ記サレザルモノニ就テハ商法カ之レヲ補充スル、例ヘバ三九二、三九三條一項、三九四、三九九、一三一ニ項、四〇〇、四〇二、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一一、一才ニ項、四一五、四一六、四一七、四二一等ノ如シ

此ノ如ク多クノ条文ガ約款ヲ補充スルモノナレハ約款ト全時ニ商法ヲモ研究セサルヘカラス、尚民法其他一概ニ法律ノ原則ノ適用アルコト勿論ナリ

### 第六章 火災保險ノ財政

火災保險ニ付テ責任準備金ト云ヘハ未經過保險料ノミナルコトハ總論ニ於テ述ヘタル如シ、其ノ金額ハ原則トシテ一年間ノ保險料收入ノノ二ナリ、而シテ保險料ハ保險金額ニ對シテ極メテ少額ニシテ平均千分ノ八内外ニ過キサレハ責任準備金ハ保險契約高ニ對シテ極メテ少額ニ過キサルトハ警クニ足リス、而モ之レハ契約者ノ権利ニ屬スルモノニシテ保險者カ任意ニ処分シ得ヘキ利益金ニ非ルコトハ勿論ナリ、此ノ金額ハ *Balance sheet* = 於テ負債ノ部ニ計上セラルヘキ一ノ控除項目ナリ

次ニ注意スヘキハ支払準備金ニシテ保險業法施行規則ニ七條ニ記サレタル如ク既ニ損害ハ發生シタレトモ未タ保險金額ノ請求ナキカ又ハ損害高調査中ニ屬シ未ダ支払ハサルモノ等ノ如ク其債務ハ殆ント確定的ナルニ不拘会社ノ決算期ニ於テ未タ支払ハサリシ金額ニニ一



ノ予想額ナリ。此ノ損害ノ査定ハ時トシテハ甚大ノ日数ヲ要スルコトアルガ火災保険へ及ヒ海上保険ニ付テハ割合ニ多クノ金額カ支払準備金トシテ計上サル、ナリ。次ニ火災保険ニ付テハ時トシテハ意外ナル損害ノ發生スルコトアリ。現ニ損害高、收入保険料ニ対スル割合ヲ見ルトキ八年々甚シキ差アリ。故ニ其ノ利益金ノ一部ヲ特別積立金トシテ火災ノ發生ニ備フルコトノ注意ヲ急ルヘカラス。其資産ヲ放資スルニ当リテハ換価ノ容易ナルモノ例ヘハ株券、社債、又ハ銀行預金ノ如キ種類ヲ選ハサルヘカラス。從ツテ貸付金ノ如キモ長期信用ヲ英フルコト能ハス。之ト生命保險会社ト大ニ異ナル所ナリ。云ハバ生命保險会社ハ貯蓄銀行ノ如ク火災保險会社ハ商業銀行ノ如シト考ヘラル。

二三二

### 海上保險

#### 第一章 海上保險ノ沿革

海上保險ハ航海ニ干スル事故ニヨル損害ヲ填補スルモノナリ。從ツテ航海業及ヒ商業ト密接ノ干係アルカ故ニ思想ハ冒險貸借 (Botting loan) ノ形式ニ於テ紀元前三〇〇年ノ頃既ニギリジヤニ於テ行ハレ居ルナリ。當時ギリシヤ人ハ通商航海ノ爲メニ營業資金ヲ調達スル必要アリ。之レト同時ニ米タ造船術及ヒ航海術モ幼稚ナリシノミナラス海賊ノ危険大ナリシカ故ニ其ノ海外貿易ハ甚タ冒險的ナリキ。於茲概及ヒ積荷ノ持主カ貿易ニ出發セントスルニ當リテ金貸業者カラ借金シ幸ニモ無事ニ目的地ニ到着シ又ハ無事ニ歸着セルトキハ其ノ金額ハ利子ト共ニ返却シモ不幸ニシテ風波又ハ海賊ノタメニ損害ヲ蒙リタルトキハ其ノ被害ノ程度ニ應シテ全部又ハ一

二三三



部ノ債務ヲマヌカレルコトヲ条件トシタルナリ、要スルニ之レカ普通ノ貸借ト異ル矣ハ其ノ弁済カ右ノ如キ条件ニカ、レル矣及ヒ利子カ冒險ノタメニ高クナリシ事ナリ、当時ギリシヤニテハ普通ノ利子ハ年一ニ〇一八〇ナリシガ、冒險貸借ノトキハ其ノ二倍以上ナリシト云フ、此ノ利率ノ差ハ特別ナル危険負担ノ報償即チ保険料ニ相当スルモノナリ、

資本家ニトリテハ此ノ貸借ヲ營業トシテ多數ノ人ニ對シテ行フトキハ損益カ自ラ平均シ收入シタル利子ノ総額ヲ以テ其ノ失フ所ノ資金ヲ償ヒ而シテ尚ホ多少ノ余リガアルヘキナリ、之レ宛モ今日ノ保險者カ保険料ノ收入ヲ以テ保険金ヲ支払ヒ且ツ多少ノ利益ヲ得ルト同シコトナリ、被保險者ノオヨリ見ルモ云ハバ一定ノ保険料ヲ利息以外ニ支払フテカ一損害ヲ蒙リシトキハ元金ヲ返却スルヲ要セス云ハバ、保険金ヲ受取ルト全一ノ作用ヲ存シタルナレハ名ハ異ナルモ明カニ海上保險ノ源ト云フヲ得、只云ハバ、保険金ヲ前ニ払ヒ渡シ置キ而シテ保険料ハ右カラ受取ル如キ形ナルカ故ニ今日ノモノトハ前

右ヲ転倒シ居ルノミナリ、

此ノ方法ハギリシヤヨリローマニ伝ハリシガ十三世紀ニ至リロトマ法皇カ利息禁止法ヲ制定セシヨリ冒險貸借モ禁止セラルルニ至レリ、併シ此ノ貸借ハ實際必要ナリシカハ他ノ名前ヲ以テ引ツバキ行ハレタリ、即チ條件付売買又ハ保險貸借ニシテ表面ハ売買ノ形式ヲトリ貸主即保險者ハ借主即チ被保險者カラ其目的物ヲ買入ルルモノトナシ之カ無事ニ目的地ニ達セルトキハ契約ハ解除セラレ反之海難ニカ、リタルトキハ、売買ハ有効ニ成立シテ貸主ハ其代価ヲ支払フヘキモノトシ而シテ借主ハ其契約辱ヲ作成スルニ當リテ利子及ヒ保險料ニ相当スル所ノ若干ノ手数料ヲ支払ヘルナリ、如斯ニシテ被保險者ハ保險料ヲ先ニ支払ヒ保險者ハ保險金ヲ事故發生后ニ支払フモノトナリ今日ノ海上保險ト始ント違ヒナキモノトナリタリ、  
政二十三世紀ニ於テハ「イタリ」ノ多クノ都市ハ *Venice, Genova, Florence* 等ニ於テハ既に海上保險ト云フ名ヲ以テ行ハレタリト云ハル、今日保存セラル、最モ古キ証書ハ一三四七年ノ日付ケノ



モノガ Genova 存在スルナリ。之レヨリ次第ニ經濟ノ發達ニツ  
 レテ海上保險ハ Flemishers, Spanish, Portugal 等ニ伝ハリ更  
 ニ英國等ニモ伝来セルモノナリ。  
 海上保險法ハ一四三五年 Spanish 港ニテ制定セラレタルカ初メナリ。一六世紀ニ至リテ Italy,  
 Spain, Brissela, Antwerp 等ニ於テ制定セラレタルナ  
 リ。英國ニテハ一六〇一年 Hamburg ニテハ一七三一年ニ初メテ  
 此ノ法律カ作ラレタリ。  
 今日海上保險業ノ中心トナレルハ英國殊ニ Lloyd's 保險團體ナ  
 リ。ソモソモ英國ニ於ケル此ノ事業ハ此ノ國ハ移住シタル Italy  
 人殊ニ Lombards 人ニヨリニ初メラレタルモノト云ハル。ナリ  
 其ノ年代ノ如キモ不明ナリ。其ノ后ノ發達ノ状況モ不明ナルカ一六  
 〇一年ノ Schuchet 女王ノ海上保險法ニヨレハ此ノ事業ハ吾國ニ  
 於テ甚タ古キ時代ヨリ行ハルト記サレタリ。  
 而シテ十七世紀ノ後半以後ハ此ノ Lloyd's 保險ニ於テ盛ンニ取引セ

ラルルニ至レリ。Lloyd's 起原ハ一ツノ Café ナリキ。Lloy-  
 ds 兩ケル Café London 塔附近ニアリテ海運業ニ干係アル  
 人カ多ク茲ニ集リ自ラ之レヲ彼等ノ Club デアルガ如クニシテ出  
 入シ此ノ家ニテ商売シタルナリ。其ノ主人モ亦敏敏ナル奴ナリシカ  
 バ其店ニ於テ Lloyd's news ナルモノヲ發行シ貿易、海運、海上  
 保險等總テ海事ニ干スル記事ヲ掲ゲタルナリ。其ノ主人ノ死后ニ至  
 リテハ之等ノ海事干係者カ遂ニ之レヲ一ツノ Club トスルニ至リタ  
 ルガ其ノ名称大ケハ保存シタルナリ。而シテ一八七一年ニハ Lloyd's  
 act ナル Law ニヨリテ社団法人トナリ一九一一年ニ改正セラレ  
 タルモノカ現在ノ定款ナリ。又其ノ新聞紙ハ一時停刊セラレシカ一  
 七二六年ニ Lloyd's list ト改名シテ今日迄引キツキ發行シ居ル  
 ナリ。Lloyd's act ニヨリハ Lloyd's 目的ハ  
 第一、會員各自カ單独計算ニテ海上保險、火災保險其他各種ノ事業  
 ヲ営ムコト  
 第二、世界各地ヨリノ海事ニ干スル通信ヲ集メテ出版物ヲ發行ス



ルコト、

第三、商事及ヒ海軍ニ干シテ會員ノ利益ヲ保護スルコト等ナリ、  
 Lloydsニ於ケル保險ノ取引キノ状況ハ引取所ニ於ケルモノトハ  
 イニ似タルモノナリ、保險ノ取引ハ各 memberガ自分ノ責任ニテ  
 行フモノニシテ Lloydsト云フ団体 (Corporation of Lloyds)  
 ハソノ memberノ支払能力ニ就テ責ヲ負フコトナシ、只取引ノタ  
 メニ便宜ヲ与ヘルコト及ヒ會員トナルヘキハノ財産及ヒ人等ヲ調査  
 スルニ過キス、但シ其ノ正會員ハ供託金 (保証金) 五千磅ヲ組合ニ  
 納メ居ル故ニ之レヲ以テ債務ノ履行ヲ保証スルコトニハナルモノナ  
 リ、其ノ取扱フ保險ハ海上保險カ主ニシテ火災保險モ相当ニ盛ンニ  
 取引サレ居レト具ノ種類ニ就テハ制限ナキカ故ニ時トシテハ全ク賭  
 博ニ類スルモノモ行ハル、ナリ、Lloydsニシテ之等ノ會員カ引受  
 クル金額ハ甚タ少額ナルヲ常トスルカ故ニ從ツテ一ツノ証券ニ數十  
 人カ同時保險者タルノ例少ナカラス、茲ニ於テ保險ノ引受ヲ周旋ス  
 ル專向ノ brokersガ發達シテ被保險者ノ依頼ニ応ジテ多数ノ保險

者ト契約ヲ契結スル任ニ當レリ

Lloydsニ於テハ保險業以外ニ Lloyds List ヲ發行シテ其會  
 員及ヒ一般購読者ニ配布スル、又船舶ノ検査、船ノ格付ナ即チ等級  
 ヲ定メルコトヲモ事業ノシテオル、有名ナル船名録 (Lloyds Re-  
 gister of Shipping) ヲ發行シテオル、此ノ事業ニ當ル專向ノ  
 技師ヲ Surveyors トニフ、Lloyds Surveyorsハ、世界各  
 地ニ居リテ船ノ検査、損害ノ調査、等ノ事ヲ取扱ヒ居レリ、  
 英國ニ於テハ此ノ事業ハ初メハ Lloydsノシニ行ハレタルガ  
 一七二〇年ニシテ、会社 Royal Exchange Assurance Com-  
 pany、Lloyds Assurance Corporation ガ設ケ  
 ラレタリ、此ノニ社ハ Lloyds以前ニ於テ此事業ヲ管シ得ル位  
 取ヲ与ヘラレタリ、併シ十九世紀ニ入リテ營業自由カ高唱セラレ、  
 ニ至リ一八二四年遂ニ此ノ特権カ廢止セラレ、レヨリ次第ニ其ノ  
 会社組織ノモノカ生シ今日 Londonニ於テハ Lloydsト諸會社  
 トノ勢力カ伯仲ノ向ニアリト云フ、



英國ノ船主ノ間ニハ船舶ノ保險ニ付テ相互組合ヲ設ケ居ルモノ多シ、ソノ起源ハ上述ノニ会社カ独占ノ権力ヲ振テ保險料甚タ高カリシカハ船主ハ相互組織ニヨリテ安キ保險ヲ得ント欲シタルニ依ルト云ハル、

併シ右ノニ会社カ法律上独占ヲ有セシカハ之等ノ組合ハ法人ヲ形成スルコトハ許サレザリシカ遂ニ十九世紀ニ至リテニ会社ノ独占モ破レ程ナク發布セラレタル会社法ニヨリテ之等ノ組合ハ商會会社ノ一種ト認メラル、ニ至レリ、之等ノ目的トスル所ハ色々アリ、中ニハ普通ノ保險者カ保險スル所ノモノヲ相互組織ニテ行フニ過ギサルモノアリ、併シ他ノ保險者カ保險セサル特殊ノ *Wagon* ノミヲ相互ニ保險スルモノカ最モ多シ、例ハ *Wagon rule*、備船者ノ債務不履行ニヨル損害、普通ノ保險者カ填補セサル小額ノ損害等、例ハ *船ノ单独海損*ニアリテハ三〇%未満ノ損害等ヲ填補スル目的ニテ作ラレ居ル者、又ハ特ニ漁船ノ相互保險ノミヲ行ツテオトルコトナリ、

吾國ニ於テハ明治十二年ニ東京海上保險会社ヲ設ケラレタルカ始メニシテ、實ニスヘテノ種類ノ保險ノ一番初メナリ、之ハ當時ノ實業家カ通商航海ヲ盛ニスル爲メニハ海上保險ノ欠クヘカラサルヲ覺リテ政府ノ援助ヲ得テ之レヲ設立シ又一方ニハ銀行ヲ説キス、メテ保險ノナキ貨物ニハ荷爲替ヲ取組マサルコト、ナサシメ色々ノ方法ヲ以テ荷主及ヒ運送業者ヲモ勸誘シテ漸ク此ノ事業ヲ始メタルナリ、此ノ会社ハ久シキ間事實上独占ニテ事業ヲ営ミシカ前ニ火災保險ニテ述ハタル如ク明治二十六年ニハ好景氣ニ乘シテ一年間ニ五ノ海上保險会社ヲ設ケラレタリ、其中三ハ二年以内ニ失敗シ残リノ三ツカ互ニ競争シ来レルナリ、日清戦争后ノ好景氣時代ニハ只一社設ケラレシノミ、然ル日露役后ノ好景氣ニハ三十九年ヨリ四一年迄ニニ会社新設セラレ又火災保險会社ニシテ海上保險ヲ兼営スルモノ四ツ生レタリ、歐洲大戦ノ影響ヲ受テテ吾外國貿易及海運業ハ大進歩ヲナシ從テ海上保險ヲ益々要求スルニ至リ、一般經濟界ノ事業熱、勃興ト相俟ツテ大正六年ニハ三社、七年ニハ五社、八年ニハ七社ト云フ如ク多數新



設セラレ、火災保險会社ニシテ之レヲ當ルニ至リシモノ甚ク多シ、海上保險会社ハ互ニ競争ヲ避クルタメニ早クヨリ相互ノ協定ヲナセシカ履、之カ破ラレタリ、併シ明治三十六年以來ハ比較的ヨク此協定カ守ラレ居ルト云フ、惟フニ之ハ海上保險ノ中心市場タルLondonノ料率ニ左右セラル、爲ニ期ヤスシテ其料率等カ一致スル結果ナラント想像セラル

政州戦争ノ際 *war risk* ニ対スル保險料カ非常ニ騰リ殆船ノ航通カ杜絶セントシ貿易ノ發達ヲ害スル怖アリシカ政府ハ大正九年三月戰時海上保險保証法ヲ定メ直ニ実施セリ、之レハ保險業者カ政府ノ指定セル料率以下ニテ *war risk* ヲ引キ受ケ之レカタメニ事故發生シタルトキハ政府ニテ無償ニテ其ノ損害填補額ノ八割ヲ保証スルナリキ、之レハ三ヶ年向ニ約三〇〇〇万円ノ政府支出ヲ要スルニ至リ戰時ノ困難ニ陥シカハ大正十一年一月ニハ之ヲ改メ下條附海上再保險法ヲ施行シ政府ニ給テ一定ノ保險業者カ本法ニ從テ引受ケタル元後、契約ニ對シテハ政府カ一定ノ保險料ヲトリテ其再保險可引受ケルフト、セリ其費ハ行結業ヲ示シ貿易ノ發達ヲ大ニ助ケタルナリ

大正十三年一月廿五日印刷  
大正十三年一月廿五日發行 (非賣品)

東京市本郷区本郷六丁目二番地

編輯兼 發行者 石田正七

東京市本郷区本郷赤門前

印刷所 文信社  
電話名三三四七番



14  
711



終

